


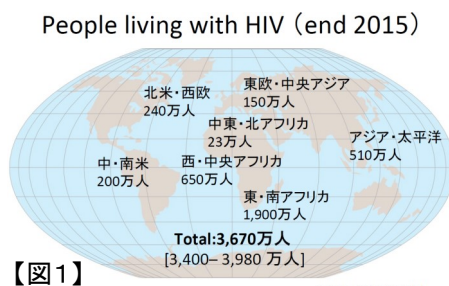


◆進む世界各国のエイズ対策 ～ 一方日本は？ ～

 **エイズ医療対策室 藤井輝久**

日頃より、エイズ診療にご理解とご協力いただき感謝いたします。この「エイズアップデート」を久しぶりに投稿いたします。今回は、表題のテーマについてお示ししたいと思います。

【図1】は、UNAIDS(国際連合エイズ合同企画)が発表した2015年末時点での世界のHIV感染生存者数の推計です。世界には約3670万人の感染者がいると推計されています。最も多いのが細分化されて

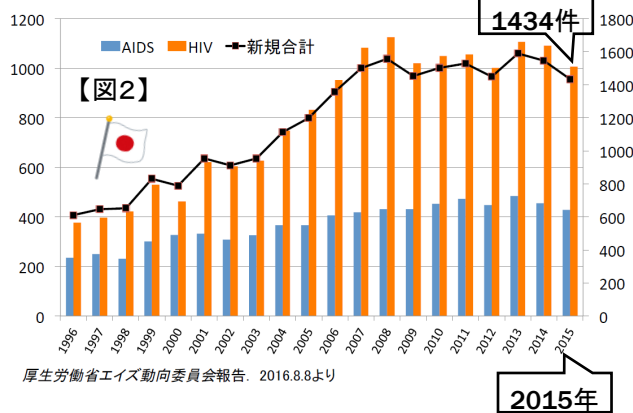


アフリカです。前年度は約3690万人と推計されていましたが、20万人減少したことになります。その理由は死亡者数が感染者数を上回ったからではありません。有効な治療薬が（特に先進国で）使用されるようになってから死亡者数は激減しており、ピーク時の2004年に比べ半減しています。つまり予防啓発の効果が徐々にではありますが、実を結び始めている、つまり新規感染者が減ったことが要因と考えられています。2014年末の同様の推計と比較しま

すと、南北アメリカ大陸、ヨーロッパ・中央アジアでは人数の変化はなく、アフリカでは減少しています。つまり日本があるアジア・太平洋地域のみが唯一感染者が増え続けている地域となっています。

では、日本はアジア・太平洋地域の中でなぜ増え続けている国なのでしょうか？ 【図2】は厚労省のエイズ動向委員会の報告です。ここ数年新規感染者は頭打ちで、年間1400～1500人程度となりましたが、前述したとおり治療で感染者の生命予後は劇的に改善していますので、死亡者数は増えてはいません。結果的に増加の一途をたどっているのです。今後は新規感染者を減らすことを考えて行く必要があります。「予防啓発」により、危険なセックスをしなくなる「行動変容」に繋がることは、なかなか難しいです。個人的な意見ですが、それは「はなから無理」

日本のHIV/AIDS年次毎新規患者数



と思っています。ですから、未感染者の人々に具体的な感染予防法を提示し、それを実行してもらう必要があります。

最近PrEP (Pre-Exposure prophylaxis) の概念が確立し、実際に臨床研究も多く行われています。我々医療者は感染血液の付着した針刺し後などの曝露事故後に、速やかに抗HIV薬を内服して、感染を防いでいます。しかし、PrEPは「曝露前に」、つまり「セックス前に」未感染者が抗HIV薬を服用して感染予防をするものです。正確には追加内服として後も2, 3日服用するプロトコルですが、感染予防には非常に効果的な結果が得られています。

但し、これを日本に導入するには大きな壁があります。一つ目は、「予防は医療でない」とする大前提があり、高価な抗HIV薬を自費で購入しないといけないこと、二つ目は、薬局がボトル単位でしか購入できず不良在庫となってしまうということです。経済的に余裕のある方は、抗HIV薬をボトル単位で自費購入することは可能かもしれませんが、前述の疫学のように、HIV感染は発展途上国、つまり貧困層での感染率が高いのですが、日本でも同様です。ですから、なかなか買ってまで……とする感染者及びそのパートナーは現れてこないでしょう。今後もこの状況は変わらないと思われま。PrEPが広く行われるようになれば、日本でも新規感染者の減少が見込まれる訳ですが、その手立てが分かっていながら、できないことは何とも歯がゆいものです。

<End>



◆「第7回中国四国地方H I V陽性者の歯科診療体制構築のための研究会議」を終えて



歯周診療科 岩田 倫幸

2016年11月6日（日）、岡山コンベンションセンターにおいて、第7回中国四国地方HIV陽性者の歯科診療体制構築のための研究会議が開催されました。広島大学病院 輸血部部长・エイズ医療対策室長 藤井輝久先生の開会の挨拶から始まりました。



【講演1】「H I V感染症の基礎と最近の話題」北海道大学病院 血液内科 遠藤知之先生

疫学・病態・治療法などH I V感染症の概要を基礎知識から最近の傾向、北海道におけるH I V陽性者に対する歯科診療体制の現状を踏まえてご講演頂きました。歯科医療従事者が注意すべき口腔内症状にも言及して頂いたため、多くの方に非常に理解しやすい講演だったと思われます。



【講演2】「一人のHIV陽性者として生きていくこと～血友病と薬害エイズ、東日本大震災を経験して～」

特定非営利活動法人 りょうちゃんず 早坂典生氏

H I V陽性者として歯科治療に対する切実な願いを、血友病を含めた病状の経過などを踏まえてご講演頂きました。歯科医療従事者としてだけでなく、医療従事者として考慮すべき患者様の切実な願い及び、共に社会生活を営んでいる人間として受け入れるべき願いを受け止めることが出来ました。今後の医療人としてHIV対策（救済医療）に取り組んでいく必要性を強く感じました。



【話題提供】「地域のHIV歯科診療体制の活動状況について」

大阪府歯科医師会の津田高司先生、徳島大学 大学院医歯薬学研究部の青田桂子先生、高知大学 医学部歯科口腔外科学講座の山本哲也先生及び広島県歯科医師会の三反田孝先生の4名の先生方にそれぞれの地域でのHIV歯科診療



体制の活動状況の現状に関して報告を行っていただきました。未だ診療体制が整っていない地域では体制構築に対して障害となる複数の事象をできるだけ速やかに解決することが必要ですが、一方で、既に診療体制が構築されている地域でも、その構築過程に違いがあり、その違いにより様々な問題点が浮き彫りになっているという現状があるとのことでした。



【会議】議題「中国四国ブロックにおけるHIV陽性者の歯科医療体制構築について」

中国四国ブロックには、HIV陽性者の歯科医療体制構築が進んでいない地域が多数あるため、それぞれの地域での現状をご報告頂きました。体制構築への障害の対処方法及び、体制構築のために取るべき手段、体制維持のために重要視すべき項目などを中心に議論が交わされた後、会議の司会を務められた広島大学病院 主席副病院長 栗原英見先生に閉会のご挨拶を頂き、閉会となりました。



今回の会議において抽出された問題点は、中心となるべき拠点病院のみで改善できるものだけでなく、行政側の問題点、多数を占める開業歯科医院を統率する歯科医師会側の問題点も存在することが明らかになりました。



HIV感染に対する治療法の進歩によって、HIV陽性者の歯科治療は、HIV/AIDS関連口腔症状に対する治療から一般歯科治療に変化し、患者もライフスタイルに合わせた地域歯科医院での診療を望んでいるという現状から、一般開業医で治療を受ける機会が今後ますます増えていくと考えられます。



そのため、行政および歯科医師会に十分に必要性を理解して頂き、より強固な協力体制を築くと共に、歯科医師に対してのHIV感染症に関する啓発活動が引き続き必要であると考えられます。

また、本会議の参加者が年々増加している傾向があることから、各地域におけるHIV陽性者に対する歯科医療体制構築の必要性が重視されているとも考えられ、今回議論された内容を基に、体制構築がより一層進展および改善されていくことが期待されます。

<End>

◆広島大学病院開発 病院受診&服薬をサポートする管理アプリ



「せるまね」 iOSに続き、待望のAndroid版完成！さらにverUP！

広島大学病院エイズ医療対策室にて作成、配信したアプリ、自身で病院受診&服薬をサポートする管理アプリ「せるまね」のデビューから早くも10ヶ月!!!!

この度、患者さんの所持率が高かったAndroid版スマホ・タブレットにも対応出来るようパワーアップしました。さらに、毎日服薬記録を付ける事でジョウロに水が溜まり、その水をあげて種から花を咲かせる育成機能付き☆彡 服薬継続のストレスを軽減出来ることを期待しています。



◆12月1日は世界エイズデー



こちらのレッドリボンをご存知ですか？ レッドリボンは古くはヨーロッパで病気や事故で亡くなられた方々への哀悼の意を込めて身につける風習がありました。今から35年前にエイズという病気が現れました。そこで、アメリカにおいて志半ばでエイズで亡くなるアーティストを追悼し、病気への理解と支援する意味でこのリボンが利用されるようになりました。そして1988年に感染防止と差別・偏見の解消を目的にWHO（世界保健機構）が『世界エイズデー』を制定しました。現在でも日本、世界で様々なイベントが開催されており、今回は広島でのイベントの様子を広島大学病院 エイズ医療対策室の臨床心理士杉本さんにレポートして頂きました。

『HIVイベント検査に参加して』 エイズ医療対策室 臨床心理士 杉本悠貴恵

2016年12月3日、広島市中区にあるアリスガーデン付近でHIV啓発活動としてHIV検査イベントが開催されました。このイベント検査は広島市、広島県、一般社団法人広島県臨床検査技師会、特定非営利活動法人りょうちゃんず、広島大学病院が共同で行っています。

今年は約90名と非常に多くの方が受検されて、私は検査前相談員として受検者の方々にHIVに関する説明を行いました。感染のリスクや経路、HIVウイルスの抗体ができるまでの期間などをお伝えすると「初めて聞いた」と驚かれたり、お伝えした内容を前向きに理解してくださる方がとても多いのが印象的でした。



そして、「また受けにきます」と言ってくる方、「前に受けたことがあるので、また来ました」と言ってくる方も。性感染症は一度検査したら大丈夫ということではなく、定期的な検査で早期に発見することが重要だと言われています。このイベントの継続した開催により早期発見、予防の重要性等の知識が少しずつ広がってきていると実感できました。今後もこのイベントに参加して、一人でも多くの方に受検してもらえればと思います。

<End>



◆広島大学病院 HIV診療チーム新メンバーからのご挨拶

エイズ医療対策室 看護師 丸山 栄子 (まるやま えいこ)



昨年8月よりエイズ予防財団のリサーチレジデントとして、エイズ医療対策室の一員となりました。看護師経験は20年弱ですが、エイズ看護の経験は少なく、一から学び直している所です。早く患者さまのお役に立てるよう精進していきますので、どうぞよろしく願いいたします。サンフレッチェ好きで、ビッグアーチで試合がある時には、足しげく通っています。スタジアムは開放感があってとても気持ちが良いので、ご興味のある方は、是非一度観戦にいらしてください。お勧めです。



エイズワーキンググループの報告

エイズワーキングは、HIV/AIDSについて最新情報を提供し、看護実践能力を高める看護部の課外活動として、病棟や外来のHIV/AIDS診療に関わる看護師など19名で活動しているグループです。今年度は2回の学習会を実施しました。

その中で当院全職員を対象とした、エイズワーキング公開学習会を広島大学病院臨床管理棟2階にて2016年10月28日(金)17:45から開催しました。今回はその報告をさせていただきます。

エイズワーキング公開学習会 「HIV陽性患者さんのケアポイント」

～あなたの病棟に入院された時、この講義はきっと役に立ちます～

7階西病棟 看護師 藤原 望美

このテーマでの学習会を企画した発端は、一昨年実施した看護師対象の勉強会のアンケート結果の中に、“HIV疾患のある血友病患者やHIV疾患患者が血液内科以外で入院した際に不安を感じることもある”という意見を多く目にしたからでした。その不安というのは、例えば消化器外科や整形外科の手術等で自身の病棟に入院された際、体液曝露時や内服管理の対処、患者のセクシャリティ、血友病の病態や輸注等の知識不足からくるものと思われます。HIV疾患が『慢性疾患』へと変遷してきました。どの病棟にもHIV疾患を持つ患者が入院する可能性はあります。そこで、アンケート結果をもとにこれだけは知っておくべき内容を検討し、血液内科山崎医師、エイズ医療対策室の杉本臨床心理士を講師としてお招きし、ご講演いただきました。

まず、最初に杉本臨床心理士には主に①HIV疾患患者背景への理解 ②医療対策室とソーシャルワーカーとカウンセラーの役割について、そして山崎医師には①体液曝露 ②ARTと内服管理 ③薬害HIV患者の輸注 ④術前・術後の管理についてでした。今回、スピーカーが看護師以外の講師であったことや、広報活動をWEB、院内の様々な場所にポスターなどで掲示し全職員を対象としたことで、参加者は医師、看護師や薬剤師、歯科衛生士やMSWなど多職種となり24名。HIV疾患患者の心理、LGBTが抱える心理的問題を臨床心理士から学べたこと、医師からは絶食時の抗HIV薬の内服の管理やドレーンの体液曝露のこと等を具体的かつコミカルにご講演いただき、様々な切り口があったことで満足度が高いというアンケート結果が得られました。

当該病棟はもちろん、その他の病棟の看護師や様々な職種が参加していただいたことで、各々の部署に研修内容を持ち帰り、この学習会が患者さんにとってより良いケアを提供できる一助となることを期待しております。今後もエイズワーキンググループとして微力ではありますが院内・院外で啓発活動を行っていきたく考えています。いつでも皆さまのご参加をお待ちしております。



☆ 定例会 ☆

日時: 毎月第2木曜 17:30～18:30

場所: 入院棟3階カンファレンスルーム

担当: 9階西病棟 看護師 田村澄佳

☆ 今後の学習会のご案内 ☆

① 実践センターHIV基礎知識

② 公開学習会

* 日時は未定ですが、今後も継続します

◆ AIDS UPDATE 編集後記 ◆ (編集担当: 広島大学病院 エイズ医療対策室 リーダー-村上)

2017年、酉年が始まりました。ちょうど1年前にHIVの情報について学び始めて、1日1回1錠の服薬で免疫力を保つことができるという事実に驚愕したのを思い出します。感染経路の特徴から人の性の部分について深く考える機会も多く持つようになりました。セクシャリティという部分はここ最近、TVやネット、誌面で広く報道されていることもあり、より多くの人に今まで以上に情報が入っています。その中から、正しい情報を得ようとしている人も多くなっているの、最終的に正しい知識を持ってくれる人が多くなる世の中を期待してします。その為に、情報社会の中で最新の正しい情報を発信し続ける大切さを感じ、その一役を担える仕事につけたことを誇りに思います。引き続き、本年も宜しくお願い致します!(^^)!

